

特定鳥獣(カワウ)の保護及び管理に係る研修会

研修資料

この研修資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Web での掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしているものがあります。

令和元年度特定鳥獣(カワウ)の保護・管理に係る研修会(基礎編)

対 象: 都道府県もしくは市町村の鳥獣及び水産等行政担当者

開 催 日: 2019年7月30日(火)

場 所: ABC貸会議室(愛知県名古屋市) 第5会議室

講師と科目: 高木憲太郎(イントロ 特定鳥獣保護管理計画と広域協議会)

加藤ななえ(カワウの生態と生息状況)

加藤洋(モニタリングの重要性 ~管理に活かすモニタリング~)

高木憲太郎(現状把握から組み立てるカワウの個体群管理)

相 談 会 : 勉強会に向けたアンケートの説明と相談

特定鳥獣保護管理計画と 広域協議会



**NPO法人バードリサーチ
高木憲太郎**

スライド提供：
環境省自然環境局野生生物課
鳥獣保護業務室

Photo by 渡辺英郎

【特定鳥獣保護管理計画制度】

野生鳥獣の保護管理を
科学的・計画的に
法的な根拠を持って行う

何をどう
やったのか？
↓
結果を第3者
が検証できる
データに

何をどう
手順でやる？
↓
結果をどう
評価する？

なぜ、
一生懸命生きて
いるだけの
生き物を？
↓
個体群管理を
行なう根拠！

ための制度

生態の解明など学術的な必要性 > 学術捕獲
農林水産業被害も起こす個体の除去 > 有害捕獲

特定鳥獣保護管理計画の概要

【特定鳥獣保護管理計画とは】

- ① 計画のねらい： 地域的に著しく増加している種等について、種の維持を図りつつ、農林業被害の軽減等を図るための鳥獣の管理
- ② 策定主体： 都道府県が策定(任意)
- ③ 対象： シカやイノシシ等の地域的に著しく増加している種、またはクマ等の地域的に著しく減少している種

特定鳥獣保護管理計画の策定及び実行の流れ

```

    graph LR
      A[現状把握  
○生息状況調査  
○被害状況調査  
○捕獲状況調査] --> B[保護管理計画の策定  
保護管理目標の  
設定  
○生息数等  
○生息環境  
○被害防除]
      B --> C[保護管理  
事業の実施  
○生息調査  
○個体群の構成  
○被害状況]
      C --> D[モニタリング調査の実施]
      D --> A
  
```

(計画的・科学的な個体群管理システムの確立)

ガイドライン及び 保護管理の手引きの、 ここがポイント！



- 「ガイドライン」と「保護管理の手引き」の2部構成で、カワウの保護管理の全体像が掴みやすい!
- フローチャートの導入と解説により「いまやるべきことは何か?」がわかりやすい!
- 個体群管理の考え方とノウハウが詳しい!
- カワウの管理のために必要な知識を、順を追って理解できる工夫がされている!

かしこい読み方

「はじめに」を読む

「ガイドライン」を読む
保護管理に必要なエッセンスが短い文章に凝縮されている。

「保護管理の手引き」
「鵜のフェーズ」による都道府県の現状把握フローチャートを使って、現状を把握する。
いま例をすればいいが、どこを詳しく読めばいいかが分かる。

技術編と資料編
*事例が多数紹介されている。
*関心のあるところや読むべきところを研書を引くようにして読める。

ガイドラインとフローチャートは、保護管理の進め方への道筋を示しています。

鵜のフェーズによる都道府県の現状把握

```

    graph TD
      Start[スタート  
県内のカワウのなぐら・コロニーの位置と個体数を把握している。] -- No --> F1[鵜のフェーズ1]
      Start -- Yes --> F2[鵜のフェーズ2  
(都道府県内に100羽以上)]
      F2 -- No --> F3[鵜のフェーズ3  
(都道府県内に500羽以上)]
      F2 -- Yes --> F4[鵜のフェーズ4  
(都道府県内に3,000羽以上)]
      F4 -- No --> F5[鵜のフェーズ5  
(都道府県内に10,000羽以上)]
      F4 -- Yes --> F6[鵜のフェーズ6  
(カワウの個体数は増減を計ることができる  
段階の個体数で安定している。)]
      F5 --> F6
      F6 --> End[みんなが目指す最終鵜のフェーズ]
  
```



※ 鵜のフェーズ別現状把握参考資料

